

日時：令和2年8月19日（水）午後2時～

場所：多古町役場2階 第4会議室

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議事

(1) 総合計画にかかる町の将来像について

資料に沿って事務局より説明を行った。資料や説明に関する委員からの意見は以下の通り。

(会長)：事務局より説明の合った部分について、ご意見・ご質問等あるか。

(委員B)：将来像としての「とかいなか」というフレーズは用いるにあたって抵抗があるものなのか。

(事務局)：この部分は庁内会議においても賛否が分かれた。「とかいなか」に関して庁内会議で出た意見としては、多古を端的に表しており分かりやすいことや、今までにない言葉を使って注目しやすいといった意見も挙がったが、反対に、将来像として総合計画のトップにくる言葉・フレーズとして造語の「とかいなか」を用いるのはどうなのかといった意見や、他自治体で使っている事例があること等の意見も挙がった。

(委員B)：案として出ている3つのうち、②と③は似ている意見のため、①は奇抜でよいと思った。

「たこ・どこ・ここ」のようなフレーズ同様、特徴あるものを活用するのもよいと思う。

(会長)：将来像の文言は確かに言葉を選ぶものではある。「とかいなか」は将来像としてではなくキャッチフレーズとしては使えそうだと思う。

また、昨年12月の観光シンポジウムでC委員から提案いただいた「共創」というキーワードについてお話いただけたらと思う。

(委員C)：「共創」の言葉を言うのであれば、案②③の「みんなで暮らし続けたい」に近いフレーズになるのかなとも思う。多古町の団結力やみんなで盛り上げようという思いから「共創」という言葉をあげた。多古町の誇れるもの、よいところとして「みんなで」という部分があると思う。それを示す言葉としての「共創」。

自分としても案①「とかいなか」の言葉は良いなと感じているが、「みんなが主役」というフレーズは少し難しいかなと感じる部分もある。

(委員D)：第1印象としては「とかいなか」に惹かれた。

(委員E)：「とかいなか」について、商標登録は取られていないのか。

(事務局)：商標登録は取られていない。

(会長)：他自治体で「とかいなか」が使われている点は気になる。使用している自治体はどこか。

(事務局)：福岡県筑前市で将来像の中に使われている。庁内委員会では「とかいなか」に代わる新しい造語をつくってはどうか、という意見も出ている。

(会長)：案③「世代を超えてみんなで」という表現はよいと感じる。これまでは踏襲的に世代を超えて住み続けていたものを、これからは選択的に住み続けるという考え方で前向きで良いと思う。フレーズとしてもオーソドックスな印象。

また、アレンジとしてキーワードを加えるのも一案であると思う。前回の将来像に入っている「みんなでつくる」は、C委員の「共創」と同様、多古町の最大の特長ということもある。

(委員F)：案③がよいと思う。案②の「みんなでつくりみんなで守る」のフレーズは「つくる」「まもる」力やアイデアがある方は良いと思うが、そういった主体にはなれない人は尻込みしてしまうかもしれない。そういった部分も含めて案③を支持する。

(会長)：「多古町」や「多古」という言葉は入れるかというポイントもある。庁内会議での意見としてはどうだったのか。

(事務局)：庁内会議においては、「多古町」とするか「多古」とするか等の表現方法は調整の必要があるとは思いが入れたいという意見が多かった。

(委員E)：自分自身もワークショップに参加して、特に高校生は「多様性」の話で目の色が変わったように感じた。今までにない新しい価値観の視点が含まれる話をするときに高校生からの意見が活発になった印象。

「みんなで」や「世代(人種)を超えて」というような、大きな表現が受け入れられるような町になると良いと思う。多様性のある型にはまらない姿も受け入れてくれるようなイメージが含まれると良い。

(会長)：「世代を超えて」が選択的に住み続けるという内容を踏まえた大事なキーワードであるのと同様に、「みんなで暮らし続けたいも大事なキーワードということ。

(委員C)：案③がふさわしいと思った。また、「多古」は入れたいと考えており、「～まち 多古」という形も良いのではないかと思う。

(委員E)：案③が良いと思う。

(委員G)：案③がいい。将来像はトリッキーじゃない方が良いと思う。また、「多古町」は個人的に響きも好きなので入れたいと思う。

「暮らし続けたい」という言葉は、願望・希望が強い言葉だと思う。「暮らす」というように言い切る言葉でも良いのかなと感じる。もちろん、将来像としては希望という大きめの表現にするのも良いと思うが。

(会長)：願望も受け止めてくれるまちという意味でも、「～たい」の形は良いのではないかと思う。

(委員H)：案③が将来像として素敵だと思う。キャッチコピーとして考えるのであれば、もう少しリズムよくしたら頭に残ってよいと思う。

(委員I)：案③が良いと思う。案②は前回の将来像と似ている部分もあるので。

(委員J)：案③がしっくりくる。「多古町」もどこかに入れたい。

(委員C)：「とかいなか」が使いにくいということをふまえると、案③が良いと思う。また「多古町」の言葉は入れたいと思う。

(委員K)：案③が良い。様々な世代が暮らし続けているという絵が頭にぱっと浮かんだので、良いと思う。また、「多古町」も入れた方が良いと思う。

(委員L)：案③が良いと思う。多古町を付けるのと同時に、案②のようにサブタイトルを付けるのも面白いと思う。長くなりすぎると良くないとも思うが、文章的につなげるのではなく、サブタイトルとして付けるのも良いと思った。

(委員M)：案③が良い。みんなで一生懸命、みんなで暮らしていくイメージがあって良いと思う。

(委員D)：「とかいなか」に惹かれたが、みなさんのお話を聞いて案③がよいと思った。「多古町」も

入れたい。

(委員F)：案③が良い。

(委員N)：庁内会議としても案③が良いという意見となった。「～したい」という希望的な要素が含まれている点がよいと思うという意見も挙がっていた。

(会 長)：審議会の総意として案③を将来像とすることとして、何らかの形で「多古町(たこまち)」は入れること。また萩原委員のご指摘の通り、言葉のリズムは大切なのでそれを踏まえての調整が出来ると良い。「続けたい」は漢字かひらがなかといった部分も今後調整いただければと思う。

(2) 総合計画基本構想について

資料に沿って事務局より説明を行った。資料や説明に関する委員からの意見は以下の通り。

(会 長)：素案記載内容について審議いただき、ご意見をいただきたい。参考としてスケジュールを申し上げると、現在、各課において今後の取り組み内容について検討いただいているところ。その内容を踏まえて次回会議において、具体的内容に入っていくこととなる。本日の基本構想は、6本の柱を前回の会議で順番等について協議いただき、修正したものとなっている。この場では、こういった取り組みをしていくのかという内容を議論するのではなく、記載内容に問題が無いのかという部分について、ご意見いただければと思う。もちろん足りない施策があればご意見いただければと思う。

まず、お聞きしたいのが、14ページの今後追記の部分は、本日のワークショップまとめ資料が入るということで間違いないか。

(事務局)：その通りである。そのまま記載するというではないが、まとめたものを追記していくことを考えている。町民参画の方策は、今後どのレベルで取り組みとして取り入れられるかは各課と調整が必要と考えている。

(会 長)：せっかくの町民参画への意見なので、記載する必要はあると思うが、計画にどこまで記載するかは検討が必要と思う。各課との整合を取ったうえで意見を施策に反映しているとわかるような形で作っていけることが理想。

(委員F)：1つ目の意見として、20ページに記載されている基本政策の6つの柱の順序はこれで決定ということ間違いないか。2つ目の意見としては、一般に分かりにくい言葉が多く使われていることが気になった。町民の方にも見ていただきたい計画として、万人がわかる日本語表現の検討をお願いしたい。該当の言葉としては、フェーズ、シティプロモーション、アクセスシビリティ、レジリエント。

(会 長)：6つの柱の順番については、前回の会議等も含めこれまでの議論により決定した経緯がある。また、言葉については、町民の方が読むことを前提にできるだけわかりやすい言葉に直すことは良いと思う。しかし、国が示す「レジリエント」といった言葉はそのまま使うことが必要になると思うので、注釈をつける方法も検討してほしい。

(事務局)：検討する。

(会 長)：自身が気になった部分としては、16ページの基本的視点の部分で「実現の力」というフレーズがあるのに、文章として触れられていないので、「実現性の高い」という説明文が必要なのではないかと思う。また、「協働の力」に対応する部分が参加型まちづくりとなっている

るので「協働型まちづくり」またはC委員の「共創型まちづくり」という表現も良いと思うので検討してほしい。

19ページの土地利用構想に関しては、目標1で記載のある「定住人口・交流人口の増加」に対し、実際にどのように対応していくのか、どこを受け皿とするのかという部分をしっかり検討しておく必要がある。そのために、目標2の部分の「土地利用の適正誘導」に付随し、「増加する需要を受け止めた」という文言があると良いと思う。具体の施策内容については、担当課が優先順位をどうつけるかによる部分もあると思うので、今後の会議において議論していければと思う。

(委員C)：「こんな多古町になってほしい」を考える部分のワークショップにおいて「交通、商業、自然」という項目がすべてのチームから意見として出たという説明があったが、アンケートでは「交通」に関する意見が多く「商業」に関してはそこまで重要度が高く出ていなかった。これはなぜか。町民が重要視する項目は、優先順位を考える際に大事になると思うので、6本の柱との整合性も考えていってほしい。

(事務局)：アンケートは高齢層の回収率が高いため「交通」が優位に出たのに対し、ワークショップは高校生の参加者も多かったため「商業」についても優位な意見として出たのかなと考える。6つの柱の順番も含めて今後検討したいと思う。

(委員G)：若い人の意見をどう盛り込んでいくかという部分は重要だろう。特に多古町は若い方が転出している状況にあるので。ワークショップで出た意見については、少しでも「反映されているな」と感じられる内容にしてほしい。

(会長)：意見が反映される計画とすることは重要でありその通りであると思う。しかし一方で実現性のある内容であることも大切。そのあたりのことは今後の検討の際にも考えていってほしい。また、21ページにある「行政ニーズに対応した広域行政の推進」の「行政ニーズ」とは何を指すものか。

(事務局)：行政に向けたニーズ、行政が対応すべきニーズを示す言葉として使用している。表現として少し検討させていただければと思う。

(会長)：具体的には、今、町においてどういったものが広域連携で対応しているのか。

(事務局)：今、広域連携で対応を行っているものとしては、ごみ・消防等、多岐にわたっている。

(会長)：基本政策3に「都市基盤整備」と「環境」が並んでいるが「環境」の方が広い分野・大きな概念になるので、「環境」を先に示す方が良いと思う。

(事務局)：修正する。

(委員E)：ワークショップの時にもやもやした点として、今の新型コロナウイルスが猛威を振るっている状況で空港整備の話が出てきてもいまいちイメージできなかった。空港関連の仕事をされている方等の、今、仕事や生活に新型コロナウイルスの影響が出ている方ほど、この将来像や取り組みの柱を見たときに大丈夫かなと感じてしまう気がする。

(会長)：現状からすると確かにその通り。しかし、基本構想に関しては9年先を見据えた計画となっており、そういう意味では新型コロナウイルスにとらわれ過ぎるのもよくないと思う。

(委員G)：6つの柱を見たときに、多古町の魅力である「人」「自然」という部分が薄いように感じた。個人的には「人」を大切にしたい計画にしてほしいなと思う。

(委員H)：将来像検討の際にも思っていたのだが、現行計画の将来像にあるフレーズとしての「潤い

の町」が今回は消えてしまったことが気になる。「暮らし続けたい」といった、新たな部分・魅力を出すという意味で削られた言葉なのかなと思った。

(委員 I) : 案として問題ないと思う。

(委員 O) : 案で概ね良いと思う。

(委員 P) : 良いと思う。

(委員 C) : 案の通りで良いと思う。

(委員 K) : 案で良いと思う。

(委員 L) : 全体として問題ないと思う。

(委員 M) : 空港の機能強化等は大きなことであり、町の存続につながる重要なこと。住む方の仕事にもつながっていくことに期待する。

(委員 F) : 空港や圏央道という部分も項目としてあるとは思いますが、日々の生活や多古町に住む方への取り組みという部分も大事にしてほしい。

(委員 N) : 1つ目の意見としては、19 ページの図に関して。県の実施プランの図を載せた意図は何か。広域を示す図となっており、実際の地図とも異なるためわかりにくさが強い気がする。多古町の都市マスや未来構想で記載のある図でカバーできるのであれば無くてもよいかとも思う。また、2つ目の意見としては、今のこういった状況、コロナ禍で策定した計画書であることを計画書の最初の部分で記載するのが良いのではないかと思う。最初の方で説明として入れると、わかりやすいのではないかと考える。

(事務局) : 周辺9市町における多古町の役割を示すものとしてイメージしやすいかと思い載せた。図については、検討したい。また、コロナ禍の状況についても、計画書の最初の部分に背景等として記載したいと思う。

(委員 B) : 実際、私個人としてもコロナの影響を受けている状況。新型コロナウイルスの影響に加え、空港や圏央道整備により多古町で移転を余儀なくされる方がいるという、2つの大きすぎるインパクトで冷静な判断が難しい部分もある。後者に関しては、多古町を出ていく町民の方への配慮も必要であるし、また戻ってくる可能性を残せないかという思いもある。そういった部分についても実現可能な施策を記載してほしい。

(会 長) : 地域づくり、まちづくりを考えていく時に念頭に置くものとして、人、環境といったこれまでも重要となってきた「地」の部分に加えて、新しい光や夢を見られるもの、今回でいうと空港・圏央道といった「図」の部分が合わさることで新たな「地図」ができるという考え方があり。こういった考え方を、コロナ禍の環境要因を書く際にも置いていただけたらと思う。

また、ワークショップの意見等は可能な範囲でしっかり反映して、若者世代の意見を汲めるようにしてほしい。意見が組んでもらえたら、多古町への好きが増えるだろう。1人でも多古町のファンが増えるような計画書になると良い。

(3) その他

(事務局) : 今後の審議会スケジュールについて、今年度はあと2回を予定している。次回の審議会は11月下旬予定。それを受け、12月に議会説明を行い、1月にパブリックコメントを実施する。またパブリックコメント実施後に、2月に開催する審議会でご意見をいただく流れとな

っている。次回は具体化した基本計画を提示する予定としている。

またせっかくお集まりいただいているので、将来像についてさらにご意見を頂けたらと思う。案③を基本とし、「多古町」をどのような表現で入れるかについてお考えをお聞かせいただければと思う。

(委員C)： 「～暮らし続けたい多古町」がいいのかなと思う。

(委員H)： 「～暮らし続けたい多古町」が良いと思う。普段も多古町を使うことが多いかなと思う。

(会 長)： 「続けたい」についても漢字とひらがなの表記は検討いただければと思う。ひらがなの方が柔らかい雰囲気があると思う。

(事務局)： 「世代を超えて みんなで暮らしつづきたい 多古町」にさせていただければと思う。

4. その他

特になし。

5. 閉会

以上